慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	印度支那考古學に關する論争
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.16, No.2 (1937. 6) ,p.68(232)- 68(232)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370600-0068

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

印度支那考古學に關する論爭

佛國極東學院の所員であつたエミル・ガスパルドン氏は先年來巴里に歸り東方語學校で安南語の教鞭をとつて居られるが一九三六年十二月一日の Revue de Paris に Fouilles d'Indochine と云ふ一文を草し、佛領印度支那の考古學的發掘に就ての概括的紹介をされてをる。印度支那考古學の現況を知らんとする者にとつて好個の手引きである。氏の文筆は甚だ鋭利で紹介であると同時にやゝ手嚴しい現狀批判がなされてをる。之に對して院長セデス氏の公開書狀が同雜誌一九三七年一月二十五日號にガスパルドン氏の返書を添へて發表せられ、ついで同所員ゴルウベフ氏の「東京の考古學と東山の發掘」といふ小册子がセデス氏の序文を添へて公けにせられた。(V. Goloubew, L'Archéologie de Tonkin et les fouilles de Dông-so'n, Hanoi, 1937.) 氏はガスパルドン氏の批評に答へて北部印度支那の支那系考古學を辯護され卷末にドンソン文獻目錄及び第四回汎太平洋會議に於て發表された氏の「東京及び北安南に於ける金屬鼓の製造及び普及に就ての報告」を蒐錄されてゐる。隣邦考古學の進歩を常に希望してをる吾人にとつて學院の支那考古學的業績が正規な報告書として公けにせられず、論爭の形式をとつた小册子、小論文として論議せられざるを得なかつたことを深く遺憾に思ふ。學院の名譽の爲に、學院關係者が過去を問はず今後の研究發表に萬全を期せられることを衷心から希望する(松本信廣)。